

昭和二十五年十二月十日提出
質 問 第 七 号

国連に対する日本国政府の認識に関する質問主意書

右の質問主意書を提出する。

昭和二十五年十二月十日

提出者 横田 甚太郎

衆議院議長 幣原喜重郎 殿

国連に対する日本国政府の認識に関する質問主意書

吉田総理とその一党は、二こと目には「国連協力、々々々々」と口走るが、国連では、米・ソの対立はなほだしく、総会での深刻な対立をそのまま反映し、安全保障理事会中心が総会中心主義に移行しようとしてい
る。米・ソ二大陣営の分裂抗争はますます加重され、二つの世界が武装対立的な傾向を濃くし、解決点を
見出すにも相当困難であると報ぜられている。日本国政府は、米・ソの対立をどのように理解し、国連の
今後についてもまたどのような見透しをつけているのか。日本の国連協力とは向米一辺倒のことか。

特に、国連内、西欧側にも米英間にかんりの対立があるのではないか。米英間の意見不一致の点は何々
だと思うか。

右質問する。